

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 435 号	氏名	土田 朋子
学位審査委員	主 査	松山 俊文	
	副 査	高橋 晴雄	
	副 査	宇谷 厚志	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>小児の呼吸器感染ウイルスである respiratory syncytial virus (RSV) は成人においても気管支喘息増悪のリスクファクターである。本研究ではダニ抗原 <i>Dermatophagoides farinae</i> (Df) アレルゲン感作マウス喘息モデルを用いて、RSV 感染がアレルギー性気道炎症の発症に及ぼす役割について免疫応答の鍵を担う形質細胞様樹状細胞の機能から検討しようとしたもので目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>コントロール群と Df アレルゲン感作させた BALB/c マウス脾臓から形質細胞様樹状細胞を分離しレシピエントマウスに経鼻移入後 Df のチャレンジ有無の組み合わせで 4 群を作り肺組織、肺胞洗浄液 (BALF) 中の細胞分画の検討、肺組織から分離した単核球からの IFN-γ、IL-5、IL-10 量を測定した。次に同様の組み合わせに <i>ex vivo</i> での RSV 感染の有無の組み合わせを加え検討した。さらに抗 IL-10 抗体の <i>in vivo</i> 投与による効果と、肺組織中の制御性 T 細胞、骨髄系樹状細胞および IL-10 産生細胞についても検討した。これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>形質細胞様樹状細胞経鼻移入により Df 感作によるアレルギー性気道炎症が抑制されそこに Treg、IL-10、骨髄系樹状細胞が関与していること、さらに RSV 感染によりその抑制が解除されることが示された。これらの成果は RSV 感染による気管支喘息の増悪の機構の証明したもので高く評価できる。審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			